



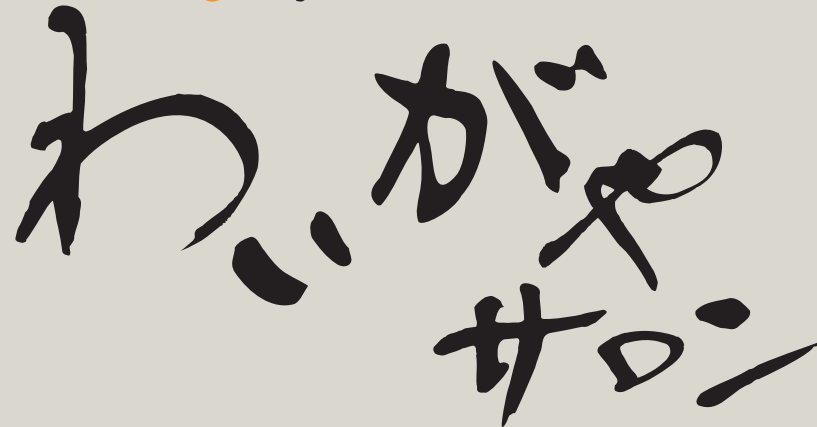
- 第1回 大河ドラマ「風林火山」をめくって 平成18年9月19日
講師/佐倉一徳さん NHK長野放送局企画総務部副部長
樋口 博さん 長野市産業振興部観光課課長
- 第2回 もっと楽しくて、元気な街づくりを 平成18年10月23日
講師/久米えみさん ながのクラッセ会長
樋口敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー
- 第3回 スポーツによる街づくりを 平成18年11月21日
講師/鷺沢幸一さん アスレながの事務局長
室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協会理事
- 第4回 写真で見る長野の街並み 平成19年1月23日
講師/清水隆史さん フォトグラファーほか
常盤昭二さん CMディレクター
- 第5回 健康と美容を保つために 平成19年3月22日
講師/虎羽里(トラバリ)ゼーラさん アーユルヴェーダ・健康セラピスト
- 第6回 環境と街づくり ばていお大門・ToiGOの設計に参画して 平成19年4月23日
講師/竜野泰一さん 株式会社エーシーエ設計 取締役副社長 [一級建築士]
- 第7回 信濃グランセローズの挑戦 平成19年5月21日
講師/木田 勇さん 信濃グランセローズ監督
- 第8回 スポーツマンシップの大切さ 平成19年8月29日
講師/荻原健司さん 参議院議員・五輪金メダリスト
- 第9回 トウガラシの尽きせぬ魅力/「農」による地域活性を探る 平成19年10月24日
講師/松島憲一さん 信州大学大学院農学研究所 准教授
- 第10回 命のバトンを渡す「ピオトープ」/長野市をピオトープネットワークシティに 平成19年11月14日
講師/松岡保正さん 国立長野工業高等専門学校 環境都市工学科教授
- 第11回 簡単・おいしい・オシャレ/わたしのレシピができるまで 平成20年3月26日
講師/浜このみさん クッキング・コーディネーター
- 第12回 あなたのからだは「築何年」ですか? 平成20年7月14日
講師/角本浩二さん バランスアドバイザー 長野県健康管理士会会長
- 第13回 アメリカ生活で感じたあれこれ 一変化に対して前向きになることの大切さ 平成20年8月19日
講師/針谷友久さん 東京中小企業投資育成株式会社 主任(長野県担当)
- 第14回 市役所第一庁舎及び長野市民会館の在り方を考える 平成20年9月16日
講師/水野守也さん 長野市総務部次長 兼庶務課長
- 第15回 長野ハルセイロ 一優勝報告&JFL昇格への挑戦 平成20年10月29日
講師/バドゥ・ビエイラ監督、薩川了洋コーチ、真富信宏キャプテン
- 第16回 農業再生とブランド化 平成20年12月3日
講師/町田良夫さん 社団法人長野市農業公社 常務理事
- 第17回 地上の楽園は馬の背にあり 平成21年2月18日
講師/中山 修さん 中山法律事務所 弁護士
- 第18回 循環備蓄型の農業の実践 宇宙のリズムにあった農業で一次産業の再生を試みる 平成21年6月3日
講師/塩澤研一さん (財)いのちの森文化財団副理事長 (株)水輪ナチュラルファーム代表取締役
- 第19回 郷土を包む「おやき」 平成21年7月14日
講師/小出陽子さん (同)ふきっ子のお八起 代表/信州おやきブランド化委員会 研究会リーダー
- 第20回 信州の伝統から生まれる食文化 一漬物の新しい風 平成21年9月2日
講師/宮城恵美子さん (有)宮城商店専務取締役/木の花屋
- 第21回 飯綱高原を、もっと住みよく、おもしろく! 平成21年11月24日
講師/志村雅由さん NPO法人 飯綱高原よっこらしよ/代表理事
- 第22回 JFL昇格に向けて 平成22年3月17日
講師/薩川了洋さん AC長野ハルセイロ新監督
- 第23回 先人の知恵を受け継ぐ〜トチの実、雑穀、あんぼ〜 平成22年5月25日
講師/石沢一男さん (有)田舎工房 代表取締役
- 第24回 3度目でつかんだオリンピック出場 平成22年7月28日
講師/新谷志保美さん バンクーバーオリンピック代表 (株)竹村製作所 勤務
- 第25回 逃げないスケルトン ～夢と感動と勇気を～ 平成22年9月15日
講師/越 和宏さん スケルトン競技3大会オリンピック日本代表 (株)システックス所属
- 第26回 Go to J〜J〜を長野に〜 いよいよ地域決勝大会!〜 平成22年10月25日
講師/鈴木政一さん 長野ハルセイロ・アスレチッククラブ強化本部長

- 第27回 グランドデザインの視点で「信州の食」を考える 平成22年11月30日
講師/千村尚司さん 千村ブレイン代表・ソムリエ
- 第28回 ご利益のある町づくり 平成23年1月26日
講師/川崎史郎さん フリーライター・市民記者ネット代表
- 第29回 防災と危機管理 平成23年6月1日
講師/安藤長一さん 篠ノ井消防署署長、緊急消防援助隊長長野隊長(第二次派遣隊)
- 第30回 江戸のエコロジスト 一茶 平成23年8月30日
講師/マブソン青眼さん 俳人・比較文学者
- 第31回 Waを生かしたまちづくり 長野はもっと元気になる 平成23年9月28日
講師/井上裕子さん 信濃毎日新聞社編集局地域活動部長・編集委員
- 第32回 メディアから見た長野 平成23年10月19日
講師/田幸淳男さん 信越放送取締役相談役

- 第33回 旅の楽しさと長野の魅力で世界をむすぶ 平成24年1月31日
講師/飯室織絵さん 観光客向けゲストハウス「1166バックパッカーズ」運営
- 第34回 神輿で街の元気を呼び覚ませ 平成24年2月28日
講師/相原 哲さん ながの町神輿連合会武蔵会 会頭
- 第35回 長野とオリンピックレガシー 平成24年3月26日
講師/小林 亨さん 日本オリンピック委員会(JOC)勤務
- 第36回 すべてが一丸となって *ながのの宝もの。をJへ 平成24年4月24日
講師/薩川 了洋さん AC長野ハルセイロ監督
- 第37回 信州の野鳥たち 平成24年8月31日
講師/小宮山義光さん 日本野鳥の会長野支部会員
- 号外 門前まち花遊歩 一牛に引かれて善光寺参り 平成24年9月1日
- 第38回 見る 学ぶ 体験する 自然農法 平成24年9月27日
講師/塩澤研一さん 農業生産法人水輪ナチュラルファーム代表取締役/(財)いのちの森文化財団 副代表理事
- 第39回 善光寺表参道と中心市街地のWi-Fi計画 平成24年10月25日
講師/俣田達男さん NTT東日本 長野支店長
- 第40回 しなの鉄道長野以北延伸と営業戦略 平成24年12月6日
講師/山田 隆さん しなの鉄道(株) 専務取締役
- 第41回 自然との共生 平成25年2月28日
講師/藤岡牧夫さん イラストレーター・絵本作家
- 第42回 花は人を育てる 平成25年4月9日
講師/矢澤秀成さん 園芸研究者/ながの花と緑そして人を育てる学校校長
- 第43回 人と組織の笑顔の創造 平成25年5月31日
講師/近藤京子さん カウンセラー/NPO法人「わくわく志事研究所」所長




 Nagano Urban Policy Research Institute
NPO法人 長野都市経営研究所
 〒380-0834長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F
 TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166
 www.nupri.or.jp
 e-mail : nupri@nupri.or.jp



通信

Vol.44
2013.9



善光寺平から北アルプスを望む

第44回

信州の分水嶺 ～山と川と里～

平成25年8月22日(木) 18:00～20:10

講師／栗田貞多男さん

写真家

■座長 岩野 彰 場所／NUPRI事務所 TEL.026-235-7911

ひと月遅れのお盆も終わり、朝晩は多少過ごしやすくなった晩夏の宵、サロンにお招きしたのは、山、蝶等をテーマに自然写真家として長年活躍されている栗田貞多男さんです。栗田さんが今年6月に上梓された『日本の屋根 北・南・中央アルプスと日本列島の分水嶺』の掲載写真を見せつつ解説してくれました。

分水嶺

分水嶺とは、山などに降った雨水が両側に分かれるところ。大分水嶺は列島の脊梁(本州で3千km、北海道～九州までを入れれば6千km)を二分する形で水系を成し、太平洋と日本海に注ぎます。中央分水嶺は、その大分水界です。特に本州中部・長野の山岳地帯では複雑な山岳地形により分水嶺が大きく蛇行しつづ連続していることが、図を見ていただくと分かると思います(一般的には地図上に示されることはありません)。

高い山が分水嶺のてっぺんになるわけですが、例えば日本一高い富士山に分水嶺はありません。全部の雨・雪解け水は富士川に注がれ、その後、相模湾・太平洋側だけに流れ込む。雨水は二分していないんですね。



日本列島の中央を連なる山稜を中央分水嶺が走る。著作よりの図

第1章 日本の屋根

3千メートル級の高峰が連なる日本列島の中部山岳地帯は「日本の屋根」と呼ばれます。「日本の屋根」という言葉は江戸時代からありました。近代以降北アルプスとも呼ぶようになった飛騨山脈は、中央分水嶺とほとんど関わりありません。白馬、五竜、鹿島槍ヶ岳など北アルプスの山々の雨・雪解け水はすべて日本海側に注ぐのですが、南端の乗鞍岳だけが太平洋に注ぐ木曾川に水が流れこんでいる。北アの中で乗鞍岳だけが中央分水嶺上にあるのです。

第2章 中央・大分水嶺の山

分水嶺は山ばかりでなく平地にも存在します。大まかですが、日本列島を縦断する中央分水嶺を北から写真でたどってみましょう。

北海道は宗谷岬、知床岬、松前半島の白神岬からそれぞれの分水嶺が大雪山系の三国山で合わります。松前半島に回り込んだ中央分水嶺は津軽海峡を渡り、本州に南下。八甲田山の南の櫛ヶ岳を通り、十和田湖を半周、奥羽山脈・秋田駒ヶ岳を下り、蔵王の御釜等に続きます。尾瀬の水は三条ノ滝からは只見川、阿賀野川を経て日本海へ、小湊沢等からは利根川へ流れ、太平洋へ注ぎます。

谷川連峰の稜線は東西に振り分けられ、東側は利根川水系、西側は信濃川水系になります。真っ白い山は巻機(まきはた)山



くりた さだお 1946年、長野市生まれ・在住。電子機器会社勤務を経て写真の道へ。クリエイティブセンター・フォトライブラリー長野主宰。日本写真家協会、日本昆虫協会、日本蝶類学会会員。主な著作に『千曲川』『黒部峡谷』、『ゼフィルスの森にて』は日本蝶類学会第3回江崎賞を受賞

一越後湯沢から撮影しています。苗場にたどり着く道がありますが、雪が多いのでなかなか登れず、まだ行ったことはありません。群馬長野県境はまっすぐ西に進みます。けれども分水嶺は野反湖(野反ダムのせき止め湖)を取り囲むように大きく迂回します。湖の水は一旦長野県に入って中津川になり、新潟県で信濃川に合流。群馬県の水が日本海に注ぐのはここだけ。また他県から長野県に水が入るのもここだけです。

志賀高原・大沼池、草津白根山・湯釜の写真です。皆さん一度は訪れたことがあるでしょう。志賀草津ルート(R292)は万座峠、菅平、と中央分水嶺に並行するように走り、南下して湯ノ丸、浅間山。この浅間山は噴煙が上がっていますね。実は長野県側から噴煙を撮影するのは難しく、5年位前の中噴火のとき、活発情報を得て、3、4日前から待ち構えて撮った写真です。

分水嶺は、荒船山(荒川の源流)、甲武信岳、蓼科山、鉢伏山、そうして中央分水嶺の最高地点・乗鞍岳を通り、岐阜県へ。位山と川上(かおれ)岳を結ぶ稜線を経て、岐阜・福井・滋賀の県境・三国岳から関西圏へ。中国山地、大山(だいせん)の南を下り、西端の壇ノ浦へ辿りつき、九州の中央山地群をほぼ一直線に南下しつつ支脈を東西に延ばします。

第3章 大分水嶺から海へ

甲武信岳は甲州、武州、信濃の三国を境する中央分水嶺の核心部です。信州側には日本海へ注ぐ日本最長の信濃川となる千曲川の源流があり(千曲川は槍ヶ岳を源とする犀川と長野市川中島で合流。犀川は梓川、高瀬川、奈良井川・穂高川が安曇野で合流)、関東側には太平洋に注ぐ荒川・利根川(流域面積日本一)・富士川の源流があります。

日本海に注ぐ黒部川は長い川ではありませんが、人を寄せ付けぬ大秘境・上ノ廊下、垂直の大岩壁が連なる下ノ廊下、その間に人間の英知と不屈の精神の結晶ともいえる黒部ダム(クロヨン)が壮大な姿を見せます。〔略〕

今回の本は写真や解説に各地の友人の力を借りて出来上がったものです。例えば阿賀野川については本の監修・エッセーを受けてくれた田部井淳子先生が福島県出身なのでぜひ入れてほしいと言われ、私は日本海側をあまり取材していないため、友人の写真を使わせてもらいました。

撮影で心がけていることは情緒感ある写真を撮りたいということです。そのために場所・時間経過を切り取り、いくつも撮ります。「川中島古戦場近くの千曲川」は松代のアーチ橋から撮った、かつての木橋の橋げたの跡。見る人の心に訴えかけるものがあったら幸いです。

投影終了後、栗田さんの直弟子である会員からの代表質問「よい写真を取るコツは？」に対して、「現地に何回も行くこと。何回も行くことによって、場所の特徴、自分が興味をもったことを確認でき、いろいろなアングルで撮影できる」、とのことでした。

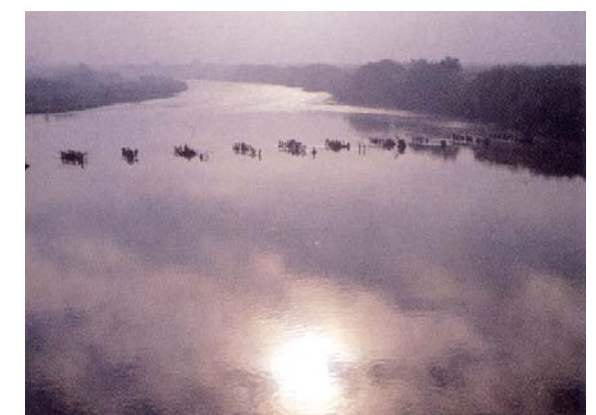
聴講者からは「栗田さんに撮影おすすめスポットを示してもらおうと長野市に来る人も増えるのではないか」などの意見が出されました。



『日本の屋根』2013年6月/世界文化社発行。登山家・田部井淳子さんが監修・寄稿。下写真は黎明の美ヶ原高地と八ヶ岳・富士山。美ヶ原、王ヶ頭から



「鹿島槍ヶ岳残照」長野市からも遠望できる



「川中島古戦場近くの千曲川」かつての木橋の橋げたが見える

